

クルリンと ほしぞらさんぽ 12月号



冬空にさえる冬の星座たち…と思ったら

12月といえば寒さもきついし、日暮れが早いし、もう冬ですよ。でも星空はまだ秋なんです。まだ秋の星座が正面にがんばっているし、木星がきらきら光っているし、冬の冬の大三角はまだ東の空に登り始めたばかりだし…。

一番星は木星

木星が明るくて、周りの一等星たちも影が薄いようです。木星はなんとマイナス2.7等と格段に明るいのです。こんなに明るい木星はひさしぶりですよ。もし望遠鏡をのぞかせてもらえるチャンスがあったら、ぜひ見ましょう。望遠鏡だと木星の4つの衛星（ガリレオが最初に報告したのでガリレオ衛星と呼ばれています）も見えますよ。

こんなに明るいのは地球と木星の公転周期の関係で距離が少しですが近くなったからで、やがてはまた離れて少し暗くなります。

目立たなくなっているけれど、土星はまだ見えています。0.9等なので普通の1等星と同じように見えます。星図を参照して探してみましょうね。

正面には秋の星座が

天頂付近にはアンドロメダ座、その西にペガサス座、首がつかれるけれど姿勢を工夫して見上げてください。南にはおひつじ座、うお座、くじら座とあるのですが、この3つの星座は大きいわりに明るい星が少ないので形をたどるのが難しいでしょうね。でもじっくり星図と比べてみましょう。北を向いて左（西）側を見ると、なんと夏の大三角がまだデンと見えていますよ。はくちょう座の十字の形も、一等星のデネブもかなり高いところに見えています。その右側にはすぐに分かる見つけやすいM字の形でカシオペア座が見えます。

「夏の」大三角が12月にも見えているのはどうしてでしょう。地球の自転軸に関係がありますが、自分で調べてごらん。

冬の星座

冬の星座の名前をいくつか言えますか。ちょっと試してごらん下さい。

おうし座はもう見えているはずですね。おうし座にはプレアデス星団（スバルといいますね）とヒアデス星団があり、赤い星アルデバランがいま



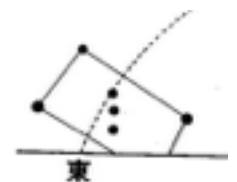
すから見つけやすいでしょう。東の空ではペルセウス座の星々がスバル（プレアデス星団）まで弓なりにつながっているのが目立ちますね。

アルデバランの下方にオリオン座の一部が見えていませんか。まだ低いので小三ツ星を見るのは双眼鏡でも難しいかも。でも小三ツ星が見えたらぜひ双眼鏡でのぞいてみましょう。星ならば双眼鏡で大きくしても点に見えるはずですが、小三ツ星の真ん中がなんだか白っぽく広がっているでしょう。これはM（メシエ）42と番号が付けられているオリオン座の大星雲で、さし渡しさが10万光年もあるという宇宙のガスのかたまりなんですって。

「星雲」と呼ばれています。ガスのかたまりから星が生まれることは知っていますか。このM42の中で生まれたばかりの星が、宇宙望遠鏡で写真に撮られているそうですよ。

オリオン座のベテルギウス、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウスと、3つの星が作る冬の大三角はまだ見えていませんね。何月になったら冬の大三角が全部見えるのでしょうか。星座早見盤を使って調べて、その時を待ちましょう。

オリオン座の三ツ星が地平線から上がる時、三ツ星の右端の星が上がるところ、その方角がほぼ真東なのです。これは覚えておきましょう。



星の色くらべ

冬の空には1等星ほか明るい星がたくさん。十分に暗

い空ならば、天の川だって天頂に見えています。

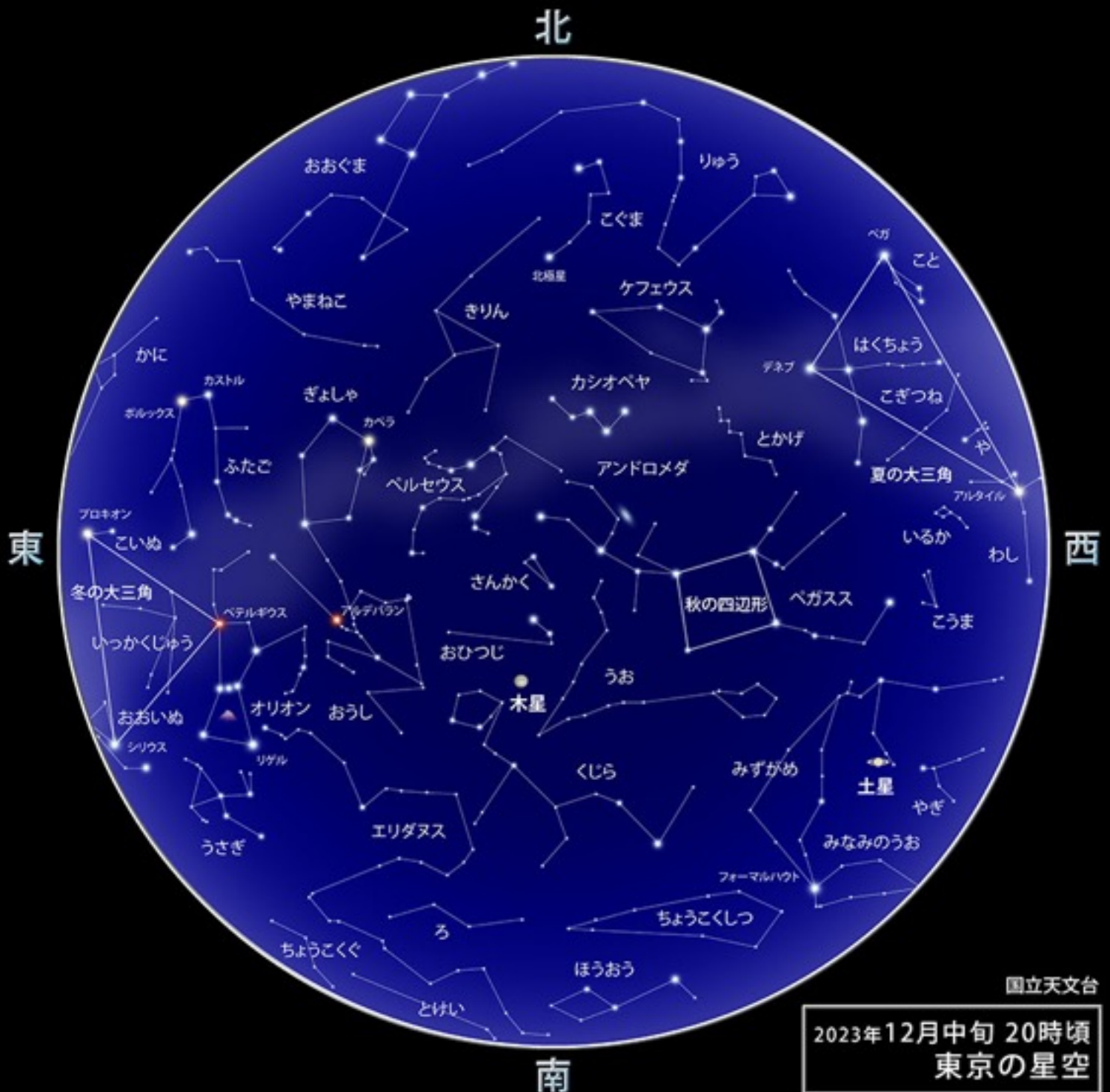
そこで星の色を比べてみましょう。肉眼でも色の違いに気づくと思いますが、双眼鏡を使うと色の違いがもっとよく見えることでしょう。小さい双眼鏡でいいのですよ。

比べる星は…ぎょしゃ座の**カペラ**、オリオン座の**ベテルギウス**、おうし座の**アルデバラン**、おおいぬ座の**シリウス**、ふたご座の**カストル**と**ポルックス**、カシオペヤ座の5つの星たち。そして**北極星**も星の色くらべに入れておきましょう。

どうして色が違うのか、自力で調べましょう。図書館で冬の星座についての本（児童書）を見つけられれば、すぐに答えが分かるでしょう。

流星群

12月には2つの流星群があります。12月14日から15日にかけて**ふたご座流星群**、23日は**こぐま座流星群**。14日は月に邪魔されず、期待できそうです。十分に暖かくして、周りの安全に気をつけて流れるのを待ちましょう。



国立天文台
2023年12月中旬 20時頃
東京の星空